

広田遺跡公園から北へ約 100 m の地点にある小高い丘が、広田集落の石塔祭の祭場です。石塔祭は、共同の祖先の霊を祭った石塔の前に集落民が集まって精霊様を供養し送るお盆の行事で、広田集落では毎年 8 月 15 日に行われています。

祭場の中央にあるオコーソ（御高祖）と呼ばれる五輪塔の前に大棚を組み、祭場の周りに 9 つある小石塔の前に一族ごとの小棚を組みます。各家から小籠にバショウやエンガ（ホウセンカ）の葉や花びらなどを刻んだもの、マキ（ハナミョウガの葉に米の粉を包み蒸して作った団子）、線香などを入れ、棚にお供えします。そして僧侶が読経をする中、それぞれ祖先の霊に参拝して祭は終了します。

最後に、お供えしたマキを必ず一本ずつ食べて帰るしきたりになっていて、これを食べると 1 年間健康であるといわれています。

町内のほとんどの集落に石塔はありますが、祭が昔のまま継承されているところは広田集落以外にはありません。

この石塔祭は共同体による祖霊祭で、古い形式を伝承していて、仏教伝来以前の祭礼の姿を反映していると考えられています。



石塔祭

小石塔（小棚に供えられたマキ）